

2 0 2 5 年度事業報告書

自 2025年 4月 1日
至 2026年 3月31日

一般財団法人日本財団DIVERSITY IN THE ARTS

目次

I.	総括		1
II.	実施事業の概要		1
	A.	情報発信事業及び事務局基盤整備事業	
	B.	歴史的価値の高い障害者アートの2025年度巡回展並びに共創の場づくり事業	
	C.	障害のあるアーティストをまじえた国際的なコンサートの開催	
	D.	障害のあるアーティストによる学校での教育普及事業（まぜこぜアートスクール）	
III.	管理業務報告		5
	A.	評議員・役員に関する事項	
	B.	評議員会・理事会開催	
	C.	職員動向	

2025年度事業報告書

I. 総括

当財団は、2016年8月に「日本財団 TOKYO 展 2020」(任意団体)として設立し、同年10月3日に一般財団法人に移行した。2017年4月11日には、これまで以上に全ての人が共に生活できる社会の実現をより促進させるため、新たに舞台芸術公演の開催を事業内容に加えることとし、名称を「一般財団法人日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」(略称: DArts)に変更した。

一般財団法人日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS への移行から9年目にあたる2025年度は、以下の事業を実施した。

- A. 情報発信事業及び事務局基盤整備事業
- B. 歴史的価値の高い障害者アートの2025年度巡回展並びに共創の場づくり事業
- C. 障害のあるアーティストをまじえた国際的なコンサートの開催
- D. 障害のあるアーティストによる学校での教育普及事業(まぜこぜアートスクール)

II. 実施事業の概要

A. 情報発信事業及び事務局基盤整備事業

- (1) 2025年度は、2024年度と同様に外部の専門クリエイティブチーム(DAYS等)と連携し、各SNSの特性に合わせたコンテンツ開発に注力した。X(旧Twitter)では新規層の開拓を目指したが、年度末時点でDArts公式Xのフォロワー数は前年度末に比べて9.48%減の41,577人にとどまり、目標とする総フォロワー数7万人の達成には至らなかった。

原因として、2025年末にXの運営側が、長期間使われていないアカウント(休眠アカウント)やAIを活用したスパム(迷惑行為)や業者アカウントを削除したことが一因であると考えられる。

DArts 公式X フォロワー数

2026年3月31日時点 41,577人 (前期比4,353人減、9.48%減)

また、Youtubeに合計8本の動画を公開した。2026年3月31日現在の累計再生数は、314,721回であった。

- (2) 公益法人会計基準に準拠した新会計ソフト(PCA会計)への移行を4月に完了。毎月、公認会計士のレビューを受けて、安定した予算・会計管理ができている。なお、Web会議の安定化や大容量データ通信の高速化を目的に、2026年度から光回線を1Gbpsから10Gbpsに拡張し、業務効率を改善できるように準備を進めている。

B. 歴史的価値の高い障害者アートの 2025 年度巡回展並びに共創の場づくり事業

本事業は、滋賀県立美術館へ収蔵された日本財団コレクションの展覧会や関連イベントを、北海道函館市、沖縄県那覇市で開催するもので、地域に根差したインクルーシブ教育の実践などを通じ、障害や多様性に対する新たな価値観や彼らの持つ創造性に出会う機会を創出。障害への既成概念を揺さぶることで、将来の社会的な価値観の変化に寄与し、多様性を認め合う共生社会の実現に向けた一歩とする。

日本におけるアール・ブリュット黎明期の貴重な作品群を現在の解釈もふまえてまとめて展示することで、作品や障害のある人の表現活動がもつ価値を再評価・再検証することで、今後の日本のアール・ブリュット作品制作や発表活動に貢献し、日本での活動の繁栄に寄与する。

(1) 北海道・函館展

- a. 時期：2025 年 7 月 12 日～9 月 7 日
- b. 場所：北海道立函館美術館（北海道函館市）
- c. 内容：函館展では、鈴木おさむ氏や壇蜜氏といった発信力のあるゲストを招いたトークイベントを軸に集客を図り、最終的に 4,500 名を超える来場者を得た。単なる展示に終わらせず、視覚や聴覚など障害のある人向けの鑑賞ワークショップや、地元の函館美術館との共催による運営ノウハウの蓄積に重きを置いた。
- d. 作品等：作品 449 点/作家 45 名
更に関連して道南地域から作品 11 点/作家 3 名を展示した。
- e. 来場者数：4,537 名

(2) 沖縄・那覇展

- a. 時期：2026 年 2 月 21 日～5 月 10 日
- b. 場所：沖縄県立博物館・美術館（沖縄県那覇市）
- c. 内容：沖縄展では、地元出身作家である喜舎場盛也氏の作品を加え、地域性を高めた展示構成とした。当初の集客予測を上回る反響と地元からの要望を受け、会期を 5 月 10 日まで大幅に延長することを決定。アクセシビリティ面では、当事者団体へのヒアリングを重ね、誰もが楽しめる展示環境を構築した。
- d. 作品等：作品 428 点/作家 46 名
(沖縄県立博物館・美術館所蔵 喜舎場盛也氏の作品を含む)
- e. 来場者数：6,607 名

C. 障害のあるアーティストをまじえた国際的なコンサートの開催

本事業は、民間セクターが障害者のインクルージョンに一層取り組んでいくための世界的な気運醸成に、障害のあるアーティストをまじえたコンサートの実施を通じて貢献するものである。

- a. 開催日：2025年12月4日
- b. 場所：三縁山広度院増上寺（東京都港区）
- c. 内容：国際会議「SYNC25 アカウンタビリティ・サミット」（主催：日経新聞社、共催：日本財団）に協賛しそのクロージングとして増上寺大殿で開催。世界各国の企業経営層に対し、DArts の活動と「多様性の力」を直接アピールする場となった。歴史的建造物である増上寺での開催は、海外参加者からも非常に高い評価を得た。多様な障害のあるアーティストが共にステージを作り上げる姿は、サミットが掲げる「DE&I（多様性・公平性・包摂）」の精神を体現するものとなった。
- d. 出演者：イギリス 1 名（視覚障害）
イタリア 7 名（知的障害）
日本 24 名（肢体障害、視覚障害、聴覚障害）
- e. 観客数：231 名

D. 障害のあるアーティストによる学校での教育普及事業（まぜこぜアートスクール）

本事業は、障害のあるアーティストを学校へ派遣する出前授業を通じ、若い世代へ新たな価値観を届けものである。さらに障害とデザインについて学ぶコースを開設予定の多摩美術大学と連携し、学生や社会人を対象に障害のある人との共創や社会実装可能な仕組みを議論するためのシンポジウムを開催し、誰もが参加可能な社会環境づくりの推進を目指していくものである。

1. 学校現場での実践と検証

本年度は以下の通り調布市、横浜市、戸田市の各市、計7校を対象に実施した。

1 回の授業実施後に同じ学校で、継続的に総合の授業にかかわるなど、長期間でのプログラムも実施した。

調布市

- ①調和小学校 4年生 99 名対象 3 クラス各クラス 1 回
講師：今井彰人（聴覚障害）、奥村泰人（聴覚障害）
- ②富士見台小学校（支援級） 全学年 10 名対象 1 回
講師：かんばらけんた（肢体障害）
- ③富士見台小学校（通常級） 4 学年 81 名対象 3 クラス各クラス 1 回
講師：石井健介（視覚障害）、堀江和馬
- ④第二小学校 4 学年 110 名対象 4 クラス各クラス 1 回
講師：江副悟史（聴覚障害）

横浜市

- ①平沼小学校 3 年年 101 名対象 3 クラス各クラス 1 回
講師：南雲麻衣（聴覚障害）、仲菜摘（聴覚障害）、佐藤湊（聴覚障害）
- ②田奈小学校（支援級） 全学年 27 名対象 2 回
講師：三輪途道（視覚障害）

戸田市

①笹目東小学校（支援級） 全学年 20 名対象 2 回

講師：DAIKI（肢体障害）、SOCIAL WORKEERZ

②美谷本小学校 4 年生 68 名対象 1 回（継続的な関わり 7 回）

講師：DAIKI（肢体障害）、SOCIAL WORKEERZ

アーティストと生徒がともに教室内で創作・表現活動を行うことで、子供たちの障害に対する認識が「助ける対象」から「共に表現を楽しむ仲間」へと変化する様子が観察された。

2. 事業検証

事業検証をおこなうことを目的に、第三者機関（特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン）による社会的インパクト評価検証を実施した。検証結果は、次年度の事業拡大に向けた重要なエビデンスとなる。

3. 多摩美術大学との連携とアーカイブ化

12 月 7 日に多摩美術大学と連携したシンポジウムを開催。シンポジウムには出席名者 72 名、ネット参加者 85 名の計 157 名が出席した。シンポジウムでは事業の社会的価値を理論的に整理するとともに、活動内容を広く公開するためのアーカイブ構築に着手した。本シンポジウムをきっかけとして、多摩美術大学において、障害のある人を主として、多様な人との共創デザインについて学ぶ専門のデザインの授業を 2026 年度より実施し、2027 年度以降に専門コースを開設する契機となった。

III. 管理業務報告

A. 評議員・役員に関する事項

(1) 評議員

吉倉和宏 2024 年 6 月 20 日 再任 日本財団常務理事
菅井明則 2024 年 6 月 20 日 再任 日本財団パラスポーツサポートセンター常務理事
石倉康弘 2025 年 8 月 1 日 就任 日本科学協会常務理事

(2) 理事

前田 晃(理事長) 2024 年 6 月 20 日就任 日本海事科学振興財団会長
小澤 直 2024 年 6 月 20 日再任 日本財団パラスポーツサポートセンター常務理事
菅原悟志 2024 年 6 月 20 日再任 B & G 財団理事長

(3) 監事

山田恵一郎 2024 年 6 月 20 日再任 日本財団スポGOMI 連盟常務理事
以上 2026 年 3 月 31 日現在

B. 評議員会・理事会開催

(1) 理事会

第 29 回理事会

開催日 2025 年 6 月 9 日(月)
開催場所 日本財団ビル 2 階第 2 会議室
審議事項
1) 2024 年度事業報告書、決算報告書案について
2) 評議員会の開催について

第 30 回理事会

開催日 2025 年 7 月 17 日(木)
開催場所 みなし決議
審議事項
1) 相澤佳余評議員辞任に伴う後任評議員の推薦について
2) 第 11 回評議員会の開催について

第 31 回理事会

開催日 2025 年 10 月 27 日(月)
開催場所 みなし決議
審議事項
1) 多摩美術大学とのシンポジウム開催について

第 32 回理事会

開催日 2026 年 3 月 24 日(火)

開催場所 日本財団ビル2階第4会議室

審議事項

- 1) 2026年度事業計画・収支予算案について
- 2) 就業規則の改定及び賃金規程、育児・介護休業等に関する規程、テレワーク実施規程の新設・施行について
- 3) 歴史的価値の高い障害者アートの2025年度巡回展並びに共創の場づくり事業の予算額変更について
- 4) 2025年度「情報発信事業及び事務局基盤整備事業」の事業期間の延長について

(2) 評議員会

第10回評議員会

開催日 2025年6月27日(金)

開催場所 日本財団ビル2階第1会議室

審議事項

- 1) 2024年度事業報告書について
- 2) 2024年度決算報告書案承認の件

第11回評議員会

開催日 2025年7月29日(火)

開催場所 オンライン

審議事項

- 1) 評議員選任の件
- 2) 2025年度に実施している事業について(報告)

C. 職員動向

新規職員1名(事業部 アシスタントプロデューサー)の雇用開始(2026年1月)。
職員2名が退職(2025年12月、2026年3月)。出向者1名出向終了(2025年5月)。
2026年3月31日現在の職員数8名